

環境に配慮した河川整備 プールの安全対策



山本敬介議員

1 鵒川本流の落差工

問 トマトンネル付近にある鵒川本流の落差工について、設置者、目的について伺います。

中村村長 落差工は北海道上川総合振興局旭川建設管理部の施設です。設置目的と時期は、古い施設であり現在調査中です。

問 水量が下がったときに落差工の下を水が抜け、危険な状態にありますか、状況認識と対策について伺います。

中村村長 落差工の現状は把握しており、旭川建設管理部富良野出張所でも確認しています。

問 ご存知のとおり鵒川に生息するヤマメの一部は100キロ

先の海へ下り、サクラムスになつて帰ってきます。この循環を復活させるため様々な団体で取組まれています。昨年から村も、寄付金で放流事業に補助を行っています。

ただ、魚を放流しても、この落差工や下流部の頭首工（水田の取水施設）の問題を解決しない限りサクラムスが昔のように遡上する事はあり得ません。



破損している鵒川の落差工

この落差工が循環を遮る施設であることは明らかで、破損をしているのであれば、環境に配慮した改修を要望していくべきではないですか。

中村村長 河川の防災対策も重要ですが、環境整備や生態系の維持も大変重要と考えており、旭川開発建設部へ陳情する際は要望書をもって対応します。

2 自転車の活用と環境整備

問 自転車を活用することで、環境負荷の軽減や健康増進につながります。

また、自転車は、海外からの観光客のニーズなど観光の側面からも期待が膨らんでいます。今後サイクリングツーリズムや環境整備に村で取り組んでいく考えがあるか、認識を伺います。

中村村長 北海道では、サイクリングツーリズム連絡会が平成24年度に設立されています。観光におけるサイクリングの市場性は大きく、環境整備が課題と考えていますので、富良野・美瑛広域観光推進協議会の中で、提案し協議を進めたいと思います。

3 レクリエーションの森

問 赤岩青巖峡の手前にある「レクリエーションの森」の現状と使用状況を伺います。

中村村長 一般の利用実績はなく、占冠・村づくり観光協会がナメコ園として利用しています。

問 レクリエーションの森は古い施設が放置され、廃墟になっています。使用しない建築物は予算化して順次撤去をするべきです。さらに、古くなったナメコのほだ木も、放置せずその都度撤去するべきだと思います。今後の対応を伺います。

中村村長 古い施設は指摘のとおりですので、撤去に向けて検討します。ナメコの原木は、まず現状を調査します。

な事例も網羅された最新の安全管理マニュアルがありますか。村の安全管理の現状を伺います。

藤本教育長 北海道独自の安全管理マニュアルはありません。毎年プール開設前に文部科学省と北海道が主催するプール安全管理講習会に担当者が参加し、プールの安全標準指針に基づいて運営管理にあたっています。

問 村でプールの指導している方に聞きましたが、マニュアルは見たことがないという事です。マニュアルがあっても、現場で共有されていない場合は全く意味がありません。再度伺います。

藤本教育長 マニュアルを現場に持ち込んで、説明、指導をやっていきたいと思います。

4 プールの安全対策

問 昨年、京都市内の小学1年生の女児がプール教室の最中に亡くなりました。実は12年前に東京都で起きた死亡事故の教訓が教育行政の縦割りの弊害で生かされていないことが分かりました。北海道にはこのよう

問 監視員は、溺れている時に飛び込んで助ける、また心肺蘇生ができる前提で配置すべきだと思いますが、伺います。

藤本教育長 今後は指摘いただいたことも含めた中で、人材の確保・対応に努めます。